

◆宿題カフェ 大正区泉尾東小学校区はぐくみネットの取組

1. 「宿題カフェ」

朝 10 時、泉尾東福祉会館に子どもたちがやってきた。宿題をする子、ハロウィンの工作をする子、ゲームや会館前のスペースで遊ぶ子、それぞれが楽しく過ごしている。ハロウィンの工作が楽しみなのか、いつもの人数をはるかに超える 65 人が受付で記名をした。昼前に昼食が出来上がると、次々に子どもたちが集まってきた。各自手を洗ってカレーを受け取り、集会室のテーブルに向かう。いつもは運営スタッフの手作りのカレーだが、この日は大阪府の支援によるレトルトカレーとハンバーグだった。天気が良いので会館前のスペースに敷いたシートの上で食べる子どもたちもいる。食事の感想を聞くと「とても美味しい」と口々に話してくれた。お代わりをもらう子どももいた。テーブルの上には、自分たちで作ったハロウィンバッグが乗っている。「帰る子はその紙のバッグの中にジュースとお菓子を詰めてもらってね。」とスタッフが声をかけた。食べ終わると各々で皿やコップを片付けていく。スタッフが声掛けしているわけではなく、当たり前行動になっていて、友達が片付け忘れた小鉢を持っていく子もいた。12 時半ごろにはカレーを食べ終えて、すぐに帰る子、工作の続きをする子、おしゃべりに夢中のグループ、ボードゲームを楽しんだり、鬼ごっこをしたりなど、自由に過ごしている。1 時半頃からスタッフが片付けを始め、2 時には子どもたちは全員帰宅した。



2. 「ハロウィンの工作」 ハロウィンバッグ

使用済みの牛乳パックを高さ半分くらいの位置で切って下半分を使う。周囲を色画用紙で巻いて、その画用紙にハロウィンにちなんだカボチャなどのイラストを描いたり、シールやテープを張ったりして飾っていき、口のところに針金モールの持ち手を取り付けて完成となる。スタッフの事前準備がしっかりできていて、手際よく教えていた。子どもたちも自由な発想で工作している。会館から帰るときにもらう缶ジュースや紙パック飲料が丁度入るサイズであった。



3. 活動のきっかけ

はぐくみネットで情報誌の発行以外に何か活動をしてみようということで、6~7 年前から子どもの居場所づくりとして始めた。最初は子どもたちに浸透しておらず、PTA 会長がのぼりを持って会館の周辺や公園を回り、子どもたちを誘ってきた時期もあったが、10 人くらいから始まり次第に人数も増えている。月 1 回、日曜日の開催で、学校での案内プリントの配布や、町会掲示板にポスター掲示をするが、インスタグラムや LINE に町会回覧版のサイトを作って、保護者や地域の人に広く周知している。「宿題カフェ」というネーミングは、食事支援を強調しすぎず、宿題をしながら楽しく過ごす居場所というイメージで考えられた。宿題を持ってこなければならない訳ではなく自由に遊んでもいいが、宿題をしてから遊んだり昼食を食べたりすることで、気兼ねがないのでは、という配慮が含まれている。

4. 運営の方法

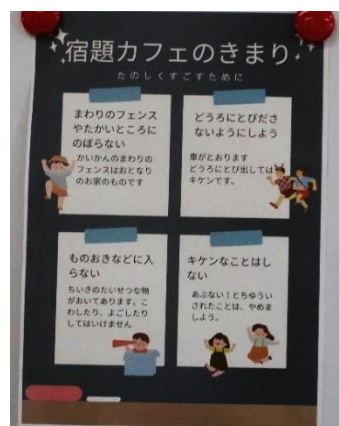
今回は参加児童が 65 人という大人数になったが、通常は 30 人程度で、スタッフも 10 人くらいが必要になっている。はぐくみネットコーディネーターの他、PTA 役員や地域活動の方々、ボランティアが協力して運営している。特にカレーの調理にはプロの方も協力されているそうで、大変助かっているということであった。

カレーの食材費などは公益財団法人オリックス宮内財団の支援や大阪府の子育て支援、区の補助金、社会福祉協議会の協力を受けて活動を継続できているとのことであるが、支援の継続が約束されているわけではなく不安はあり、スタッフの確保と共に予算の確保も大きな課題であるということであった。

活動についての保険は毎回掛けている。子どもたちは、来館時に受付で必ず学年・組と名前を記入し、シールをもらう。帰るときにはそのシールに帰った時間を記入し名簿に貼る。所在が明確になり、保護者からの問合せにも対応できるシステムになっている。

会館は民家に囲まれているので、子どもたちの声や元気な活動が時には近所に迷惑をかけることもあり、色々な対策を取っている。また子どもたちに最低限守ってほしいルールを決めている。

小学校の校長先生が毎回顔を出しておられて、大正区子ども子育てプラザからも見に来られることもある。はぐくみネット関係者と PTA 役員、地域ボランティアの連携がうまくいっている様子が見て取れた。明るく元気なスタッフで、大きな声で子どもを叱ることもなく、活動を見守っておられた。子どもたちがのびのび、安心して過ごせる場所になっていた。



聞き取り日：令和 5 年 10 月 22 日（日）

場所：泉尾東社会福祉会館